



書首

源氏物語

卷九
木九





三十加

河 藤前也

○細くはきく 手巾息不の消息也

○細くはきくと 孟世はれとヤマてはれはきく
もも也

○細くはきく 細く雲の約供奉と入るもの
もも
○うもはきく 或は 湯衣の巾用と仕残し
ももありてそれよひま入るとの也

○細くはきく 手巾息不の消息也
○細くはきくと 孟世はれとヤマてはれはきく
もも也
○細くはきく 細く雲の約供奉と入るもの
もも
○うもはきく 或は 湯衣の巾用と仕残し
ももありてそれよひま入るとの也

○宮へあいのこも 或は 夕雲ののぬふのあはき

○細くはきく 細くうらわれ 藤宿の也

○細くはきく 弄世二宮と也

○あまの 細く息不のぬ方がく遠く

○細くはきく 手巾息不の消息也
○細くはきくと 孟世はれとヤマてはれはきく
もも也
○細くはきく 細く雲の約供奉と入るもの
もも
○うもはきく 或は 湯衣の巾用と仕残し
ももありてそれよひま入るとの也

○此將の君 弄小女將也 亦息本の在り大和守
しつゝと 落葉宮のしつゝと

○うらまひり 細 夕雲の引

○年ころし 弄 三年よきうぬ 柏木の後

○ふまゆらぐりき 弄 好色の人かきくは
くしと 或秋 廿房 蓮我とありくし
とん

○うらまひり 世 祇 伴 年ころし
細 夕雲のしつゝと 落葉宮のしつゝと

○あけて 年 好り 花 不折と 年 好り 入 宮の 由
といつゝや 細 あけてのて 文字 古 秋 ころし
らり 宮の 由心と 如何 夕雲の 自 歎 也 ころし
う 情と あけて 堪 悉と ころし 入 有 ころし 也
或 祇 一 流と ころし 也 思 ころし 也
され たり 細 ころし ころし ころし ころし
ころし ころし ころし ころし ころし ころし

○うらまひり 花 是より 入 宮の 由 河 也
正 秋 由 息 本 の 魚 新 面 代 廿 二 宮 の 由 ころし
ころし ころし ころし ころし ころし ころし
ころし ころし ころし 無 正 賅 物 の ころし ころし

うらまひり 世 祇 伴 年ころし
細 夕雲のしつゝと 落葉宮のしつゝと
あけて 年 好り 花 不折と 年 好り 入 宮の 由
といつゝや 細 あけてのて 文字 古 秋 ころし
らり 宮の 由心と 如何 夕雲の 自 歎 也 ころし
う 情と あけて 堪 悉と ころし 入 有 ころし 也
或 祇 一 流と ころし 也 思 ころし 也
され たり 細 ころし ころし ころし ころし
ころし ころし ころし ころし ころし ころし

うらまひり 世 祇 伴 年ころし
細 夕雲のしつゝと 落葉宮のしつゝと
あけて 年 好り 花 不折と 年 好り 入 宮の 由
といつゝや 細 あけてのて 文字 古 秋 ころし
らり 宮の 由心と 如何 夕雲の 自 歎 也 ころし
う 情と あけて 堪 悉と ころし 入 有 ころし 也
或 祇 一 流と ころし 也 思 ころし 也
され たり 細 ころし ころし ころし ころし
ころし ころし ころし ころし ころし ころし

御膳

八十二

〇ついでにのりころもさ 孟 障子二重と云ふ人好
かたしむる

〇うらうら 或抄 夕霧の匂也

〇くち心の或抄 夕霧のふゆとせより云也

〇人の所かりたるの或抄 是よりハ廿二宮の躰を
夕霧の匂と云也

〇さばさく 細 外聞かうかちりいし
さうしとせさつとくちろくへし也

〇せくとはよ 万水 柏木のふゆよりうらうらと母はや
とくちろく物のきくれと云ふこと

〇うちとよ 細 ぬへのぬ染也と云ふのさハ
思ひやと云ふ事

〇やうらうら 孟 廿二宮の躰を夕霧の匂也

〇うせいと心やうら 或抄 小野の山里秋の躰

〇うらうらの孟 いとせとせとてめと
あつとく人しとて

〇也抄 大くこの人しと也

〇うらうらとせとてめと 細 山格子と云ふ事と也

〇さばさく 細 夕霧の匂

かたしむる
障子二重と云ふ人好
かたしむる
夕霧の匂也
是よりハ廿二宮の躰を
夕霧の匂と云也

外聞かうかちりいし
さうしとせさつとくちろくへし也
万水 柏木のふゆよりうらうらと母はや
とくちろく物のきくれと云ふこと
ぬへのぬ染也と云ふのさハ
思ひやと云ふ事
廿二宮の躰を夕霧の匂也
小野の山里秋の躰
いとせとせとてめと
あつとく人しとて
大くこの人しと也
山格子と云ふ事と也
夕霧の匂

柏木と云今夕霧とのりて心よめて也貞女
不見二丈ちりてとてハ名とてとて又夕霧
よりなりてハ心也

○ころ心よ或扱廿官のわのりて青の全篇
とて心ぬと夕霧の心よ了簡ちて吟りて流
也

○ころ心よ或扱 弄廿官のありて

○ころ心よ或扱 弄廿官のありて
とて心ぬと夕霧の心よ了簡ちて吟りて流
也

○ころ心よ或扱 弄廿官のありて
とて心ぬと夕霧の心よ了簡ちて吟りて流
也

○ころ心よ或扱 弄廿官のありて
とて心ぬと夕霧の心よ了簡ちて吟りて流
也

○ころ心よ或扱 弄廿官のありて
とて心ぬと夕霧の心よ了簡ちて吟りて流
也

○ころ心よ或扱 弄廿官のありて

○ころ心よ或扱 弄廿官のありて

○ころ心よ或扱 弄廿官のありて

○ころ心よ或扱 弄廿官のありて

○ころ心よ或扱 弄廿官のありて

Handwritten Japanese text in cursive style, likely a transcription of the text above. The text is written in a fluid, connected script across multiple lines on both pages.

五言

○まきの花 柏木の君也

○まきの花は 細 柏木とハ 細 柏木とハ 細 柏木とハ

○まきの花は 細 柏木とハ 細 柏木とハ 細 柏木とハ

○まきの花は 細 柏木とハ 細 柏木とハ 細 柏木とハ

○まきの花は 細 柏木とハ 細 柏木とハ 細 柏木とハ

○院より 弄 朱雀院のやう 孟 孫也

○まきの花は 細 柏木とハ 細 柏木とハ 細 柏木とハ

○まきの花は 細 柏木とハ 細 柏木とハ 細 柏木とハ

Handwritten Japanese text in cursive style, likely a transcription of the text above. The text is written in a fluid, connected script across multiple lines on both pages.

○花鳥雲并雁の多しあり如何
○昔君の 孟 夕霧の殿ハ雲并雁とて
花散里へつるは也

○年工ろんよ 花 夕霧の心よ思ひぬらん
弄世の人よりくうしてはせめらん
うらむらん

○花鳥雲并雁の多しあり如何
○昔君の 孟 夕霧の殿ハ雲并雁とて
花散里へつるは也

○人くハ 万水 花散里の甘房と也

花鳥雲并雁の多しあり如何

昔君の 孟 夕霧の殿ハ雲并雁とて

花散里へつるは也

年工ろんよ 花 夕霧の心よ思ひぬらん

弄世の人よりくうしてはせめらん

うらむらん

花鳥雲并雁の多しあり如何

昔君の 孟 夕霧の殿ハ雲并雁とて

花散里へつるは也

年工ろんよ 花 夕霧の心よ思ひぬらん

弄世の人よりくうしてはせめらん

うらむらん

花鳥雲并雁の多しあり如何

昔君の 孟 夕霧の殿ハ雲并雁とて

花散里へつるは也

年工ろんよ 花 夕霧の心よ思ひぬらん

弄世の人よりくうしてはせめらん

うらむらん

花鳥雲并雁の多しあり如何

昔君の 孟 夕霧の殿ハ雲并雁とて

花散里へつるは也

年工ろんよ 花 夕霧の心よ思ひぬらん

弄世の人よりくうしてはせめらん

うらむらん

。世世せうりく、或換 夕霧の文也

。あまじきまの 万水 廿宮のへくのやうな文也

。あやうきまの 或換 細宮の文也

。あひやまの 或換 玉の文也

。あまじきまの 孟 夕霧の文と云ふやうな 廿
二宮の文也

。あまじきまの 細文の文也

。玉のと哥 夕霧也 細文の玉の文と云ふやうな
くわてゆい也 河古今 あまじきまの袖の中やうな
きんころ玉の文のやうな文也

。あまじきまの 何身と云ふやうな文也

。あまじきまの 或換 廿房の文と云ふやうな
文也

。あまじきまの 或換 廿三宮の文と云ふやうな
文也

あまじきまの 或換 廿三宮の文と云ふやうな
文也

○あまのよむせとて 弄夕霧の心也

○うみはな 細いせの心也

○足跡や 孟世がと夕霧の未雨の心也
とて却而疎略あつていとこころゆるくの心也

○あまのよむせ 孟那氣の心減る物也

○あまのよむせ 河律昨の心とて 修法阿闍梨耶
とて心也

○大目如來 細律昨の自歎也

○あまのよむせ 河悪盛 貞盛迷 又纏也
花もよむせの業障也 河海の心也

○あまのよむせ 支妙 不慮 不意 遠慮も心也

○あまのよむせ 細い心もあつてゆるい心也

あまのよむせとて 弄夕霧の心也
うみはな 細いせの心也
足跡や 孟世がと夕霧の未雨の心也
とて却而疎略あつていとこころゆるくの心也
あまのよむせ 孟那氣の心減る物也
あまのよむせ 河律昨の心とて 修法阿闍梨耶
とて心也
あまのよむせ 大目如來 細律昨の自歎也
あまのよむせ 河悪盛 貞盛迷 又纏也
花もよむせの業障也 河海の心也
あまのよむせ 支妙 不慮 不意 遠慮も心也
あまのよむせ 細い心もあつてゆるい心也

あまのよむせとて 弄夕霧の心也
うみはな 細いせの心也
足跡や 孟世がと夕霧の未雨の心也
とて却而疎略あつていとこころゆるくの心也
あまのよむせ 孟那氣の心減る物也
あまのよむせ 河律昨の心とて 修法阿闍梨耶
とて心也
あまのよむせ 大目如來 細律昨の自歎也
あまのよむせ 河悪盛 貞盛迷 又纏也
花もよむせの業障也 河海の心也
あまのよむせ 支妙 不慮 不意 遠慮も心也
あまのよむせ 細い心もあつてゆるい心也

○うらふえ 孟の息不の逢春也 柏木と夕霧と霞
知音と通好ひーと

○うらうらく 或抄 中息不の煩悩とくしとく
ひよゆき

○にてあまふと 弄法呼の語の毎と我身よな
くしとく

○尺のい 孟 尺分ぬ也

○いとせらふも 河 大切うぬ也
孟 ちうくくさうふと
○んいとい 五水 夕霧はちうくくさうふと

よはまのうらうらくしぬくさうしぬ
よととととととととととととととと
おちぬまのいしぬとととととととと
らしつあぬととととととととととと
うらうらうらうらうらうらうらうら
あゆとととととととととととととと
くさうくさうくさうくさうくさうく
まよりととととととととととととと
まゆりかんととととととととととと
こいあわとととととととととととと
よもあわとととととととととととと
つるあわとととととととととととと

うらうらうらうらうらうらうらうら
あゆとととととととととととととと
まゆりかんととととととととととと
こいあわとととととととととととと
よもあわとととととととととととと
つるあわとととととととととととと
うらうらうらうらうらうらうらうら
あゆとととととととととととととと
まゆりかんととととととととととと
こいあわとととととととととととと
よもあわとととととととととととと
つるあわとととととととととととと

○この大なるやの 弄 夕霧の祖母の事

○このくは 孟 夕霧のおとこを時より今まで
内は

○やうやう 河 無益な事なり也
○わんさい 河 本妻 細雲并雁也

○このくは い 河 孫類 細くくは い 親類也

○このくは の 君 弄 廿二宮の事

○このくは の 或 扱 嫉妬の事なり也

○人の内より 弄 物えん 人の事

○このくは 河 専 或 扱 我の承引の事なり

○このくは やうやう 孟 消息の返答也 其の事なり
このくは やうやう 孟

○このくは やうやう 扱 消息の返答也 其の事なり
このくは やうやう 扱

○このくは やうやう 扱 消息の返答也 其の事なり

○このくは やうやう 弄 夕霧の事

このくは やうやう 扱 消息の返答也 其の事なり
このくは やうやう 扱 消息の返答也 其の事なり
このくは やうやう 扱 消息の返答也 其の事なり
このくは やうやう 扱 消息の返答也 其の事なり
このくは やうやう 扱 消息の返答也 其の事なり
このくは やうやう 扱 消息の返答也 其の事なり
このくは やうやう 扱 消息の返答也 其の事なり
このくは やうやう 扱 消息の返答也 其の事なり
このくは やうやう 扱 消息の返答也 其の事なり
このくは やうやう 扱 消息の返答也 其の事なり

このくは やうやう 扱 消息の返答也 其の事なり
このくは やうやう 扱 消息の返答也 其の事なり
このくは やうやう 扱 消息の返答也 其の事なり
このくは やうやう 扱 消息の返答也 其の事なり
このくは やうやう 扱 消息の返答也 其の事なり
このくは やうやう 扱 消息の返答也 其の事なり
このくは やうやう 扱 消息の返答也 其の事なり
このくは やうやう 扱 消息の返答也 其の事なり
このくは やうやう 扱 消息の返答也 其の事なり
このくは やうやう 扱 消息の返答也 其の事なり

○とうとうや 或母 巾息本のゆはひ也

○人のぬりさぬ 孟 夕霧のゆはひ也

○くさくさし 弄 ころろ心又省略の心も有

○心ゆらさぬ 巴 扱人のゆらさぬすはひとてしちぢぢ
はひのゆらさぬとてはひゆらさぬとてしちぢぢ

○ころころん 或母 巾息本のゆはひ也

おむりいひぬるいひぬる
いひぬるいひぬるいひぬる

いひぬるいひぬるいひぬる
いひぬるいひぬるいひぬる

いひぬるいひぬるいひぬる
いひぬるいひぬるいひぬる

いひぬるいひぬるいひぬる
いひぬるいひぬるいひぬる

いひぬるいひぬるいひぬる
いひぬるいひぬるいひぬる

いひぬるいひぬるいひぬる
いひぬるいひぬるいひぬる

いひぬるいひぬるいひぬる
いひぬるいひぬるいひぬる

いひぬるいひぬるいひぬる
いひぬるいひぬるいひぬる

いひぬるいひぬるいひぬる
いひぬるいひぬるいひぬる

いひぬるいひぬるいひぬる
いひぬるいひぬるいひぬる

いひぬるいひぬるいひぬる
いひぬるいひぬるいひぬる

いひぬるいひぬるいひぬる
いひぬるいひぬるいひぬる

○ちちちちしし 或母人のちちちちしし
とてしちぢぢのゆはひ也
○いひぬるいひぬる 孟 扱将君の心ゆはひ也
世宮のいひぬるいひぬると母君いひぬる

○いひぬるいひぬる 細めのいひぬるいひぬるのゆはひ也

○いひぬるいひぬる 或母夕霧のいひぬるいひぬるのゆはひ也

。此のり 細い息子のちりけりてとせり
或抄 以下女侍の君詞也

。此のりしのかみ 巴抄 息子のちりけりてとせり
ありやうとハハ ちりけりてとせり
てありけりてハハ ちりけりてとせり
とハハ 息子のちりけりてとせり
ハハ 息子のちりけりてとせり

。此のりしのかみ 巴抄 息子のちりけりてとせり
ありやうとハハ ちりけりてとせり
てありけりてハハ ちりけりてとせり
とハハ 息子のちりけりてとせり
ハハ 息子のちりけりてとせり

。此のりしのかみ 巴抄 息子のちりけりてとせり
ありやうとハハ ちりけりてとせり
てありけりてハハ ちりけりてとせり
とハハ 息子のちりけりてとせり
ハハ 息子のちりけりてとせり

。此のりしのかみ 巴抄 息子のちりけりてとせり
ありやうとハハ ちりけりてとせり
てありけりてハハ ちりけりてとせり
とハハ 息子のちりけりてとせり
ハハ 息子のちりけりてとせり

。此のりしのかみ 巴抄 息子のちりけりてとせり
ありやうとハハ ちりけりてとせり
てありけりてハハ ちりけりてとせり
とハハ 息子のちりけりてとせり
ハハ 息子のちりけりてとせり

あつてははげさうわたりくらわね
うらよハこの清しきあけりて
くらんをまじりてあつて
あつてははげさうわたりくらわね
うらよハこの清しきあけりて
くらんをまじりてあつて
あつてははげさうわたりくらわね
うらよハこの清しきあけりて
くらんをまじりてあつて

あつてははげさうわたりくらわね
うらよハこの清しきあけりて
くらんをまじりてあつて
あつてははげさうわたりくらわね
うらよハこの清しきあけりて
くらんをまじりてあつて
あつてははげさうわたりくらわね
うらよハこの清しきあけりて
くらんをまじりてあつて

○らくとゞらるせ 孟とくくゆたれハ又息不
 くりゆ使あり也
 ○中のありこの并 花鳥見の法巻寝殿の
 くるりより久なりて妻戸とてその調度
 るしとて衣也 帳臺なるも母ゆる道の
 心なり 巴柳 閑道也 夢の道なるも
 心をあてせハ兩方よりあり也

○ゆきりう孟の息不の病中とて礼をさし
 ありありて世に宮と宗敬の孫也
 ○いととるりうく 細の息不の詞

○つらとせぬと或抄 不礼なる躰と
 山二三日 河 一日不見如三月 良氏文集

○後らうと 細 來生の必會ハ有る事と
 河 万葉一よりハ二度及んぬ父母とをさしや

○ろくろくわつとらせん 親子ハ二世とつと
 又わたり 并 又生命とともひとあらうと

○わらわらうの并 此とていともよむ心と叶ア
 ○くやしとて 細 ありはとあらしと今ハ名
 ありとと

○ものほくると 細 官の内本性とるやとて
 といなり孫也

くすとすくせ心うおがりくしてグ
 けいごちんやとてしうせぬとあれ
 巴柳のありこのめの子をあらそ
 けりゆらるるしきいっし
 ろめありあさうこまうりくつこ
 まこくゆつみの病をわくわき
 ぶおれたがりありてとまざり
 ぐはくゆきばばくせぬもん
 ぐるりてらんこのふつとふ
 うもつとるもるがめど一月の
 うらすらもいっしとはう
 かん後るあさうと對面の病

へさよものゆりさあうみろが
 とむらひやハゆらぐとてくく
 時のまよへんあむとせを
 わかざらふありひゆけるもや
 しきやうぜんおとあむとや
 も物のまをうらるわむが
 ろりバカシしあふとあむと
 けんまうあめあつとあむと
 しゆゆらふあつとあむと
 さはあむとあめあむとあむと
 うらあむとあめあむとあむと
 ていあむとあめあむとあむと

○細いひるし 或抄 内膳也

○内膳のこま 或抄 廿三宮の内不食也

○うららの 細山息子の内癖のひまの

○えいひしよ 或抄 女将君の心也 又物語の也

○いささの文 或抄 廿三宮の物もちのせいしよまの
うまをとりうのひるしよまのいささのうまのせいしよまの

といひ也

○人さしよまのり 弄の息子の心

或抄 廿三宮のてとよふや夕霧のいささのいささハ不及是
非とていささのりて夕霧のいささのいささを下まのり
いささはいささのいささのいささのいささを下まのり
花鳥後朝の文のいささをいささのいささをいささのいささを

○あまのいささのり 細山息子の心

○人の内名を 或抄 世上の人のいささのいささをいささのいささを
いささのいささをいささのいささをいささのいささをいささのいささを

○さしよまのり 店也 足下と云ふ如何

○さしよまのり 或抄 まくのいささのいささをいささのいささを
いささのいささをいささのいささをいささのいささをいささのいささを

○あひのり 或抄 廿三宮の内不食也 廿三宮の内不食也
いささのいささをいささのいささをいささのいささをいささのいささを

いささのいささをいささのいささをいささのいささをいささのいささを

いささのいささをいささのいささをいささのいささをいささのいささを

いささのいささをいささのいささをいささのいささをいささのいささを

いささのいささをいささのいささをいささのいささをいささのいささを

いささのいささをいささのいささをいささのいささをいささのいささを

いささのいささをいささのいささをいささのいささをいささのいささを

いささのいささをいささのいささをいささのいささをいささのいささを

いささのいささをいささのいささをいささのいささをいささのいささを

いささのいささをいささのいささをいささのいささをいささのいささを

いささのいささをいささのいささをいささのいささをいささのいささを

いささのいささをいささのいささをいささのいささをいささのいささを

いささのいささをいささのいささをいささのいささをいささのいささを

いささのいささをいささのいささをいささのいささをいささのいささを

いささのいささをいささのいささをいささのいささをいささのいささを

いささのいささをいささのいささをいささのいささをいささのいささを

いささのいささをいささのいささをいささのいささをいささのいささを

いささのいささをいささのいささをいささのいささをいささのいささを

いささのいささをいささのいささをいささのいささをいささのいささを

いささのいささをいささのいささをいささのいささをいささのいささを

いささのいささをいささのいささをいささのいささをいささのいささを

いささのいささをいささのいささをいささのいささをいささのいささを

いささのいささをいささのいささをいささのいささをいささのいささを

。ちろきれと細州の文心息承へなり也
孟女將君心也

。あきまきと心花是ハ夕霧の文の中れ也
孟は色も心と

。ひいゆ心也扱つとるさよふうとととと
くくく

。せくろと奇夕霧也細夕霧といひゆり
ううて内名ハありとれありと

。せよやくらう也扱きとるさよふい
ととととととととととととととと

。心息承といひゆり細心息承といひゆり
の心息承といひゆり
うんの君の孟柏木右衛門督也

。あきまきと心花是ハ夕霧の文の中れ也
孟は色も心と

。あきまきと心花是ハ夕霧の文の中れ也
孟は色も心と

。あきまきと心花是ハ夕霧の文の中れ也
孟は色も心と

。あきまきと心花是ハ夕霧の文の中れ也
孟は色も心と

。あきまきと心花是ハ夕霧の文の中れ也
孟は色も心と

。あきまきと心花是ハ夕霧の文の中れ也
孟は色も心と

。あきまきと心花是ハ夕霧の文の中れ也
孟は色も心と

。あきまきと心花是ハ夕霧の文の中れ也
孟は色も心と

○まづいよまろし 弄 世三宮の氣息不れり
まろし 弄 世三宮の氣息不れり

○女郎花哥の息不也 世抄 ちりりハ世三宮の
お初めまろし 母所也 ころころハ夕霧のや
あるまろし 息不れり 女ゆりハ心の哥
を一夜ハくろくまろし 息不れり 無曲と
河秋のまろし 息不れり 息不れり 息不れり
くろくまろし 息不れり 息不れり 息不れり

○まろし 弄 物の氣はふりて
まろし 弄 物の氣はふりて

○まろし 弄 物の氣はふりて
まろし 弄 物の氣はふりて

○三条とのよ 弄 雲井雁の方也

○まろし 立ろし 孟小野の歌也
或抄 今朝くろし 今夜ハ遠慮ハ歌也
まろし 弄 先夜實事ハ歌也

○ちんよとのよ 河心ハあまろし 息不れり
まろし 弄 息不れり 息不れり 息不れり
或抄 息不れり 息不れり 息不れり
まろし 弄 息不れり 息不れり 息不れり

まろし 弄 息不れり 息不れり 息不れり
まろし 弄 息不れり 息不れり 息不れり
まろし 弄 息不れり 息不れり 息不れり
まろし 弄 息不れり 息不れり 息不れり

まろし 弄 息不れり 息不れり 息不れり
まろし 弄 息不れり 息不れり 息不れり
まろし 弄 息不れり 息不れり 息不れり
まろし 弄 息不れり 息不れり 息不れり

まろし 弄 息不れり 息不れり 息不れり
まろし 弄 息不れり 息不れり 息不れり
まろし 弄 息不れり 息不れり 息不れり
まろし 弄 息不れり 息不れり 息不れり

花散里

三十一

○ひろのあまうー 或母雲舟雁の舟舟く

○まいうしわぬ 孟ゆ息不病中ゆ人也

○こはいうよ 万水夕霧の舟也

とちのうしてらんやまーいさー
わらわらよーいぬやうめてん
まよしてわらびままうーいけ
りかひろのあまうーあうーいけり
よあさうかあまうーこのあまうー
りてまよしてうーいぬあまうー
うのわいのあまうーいぬあまうー
えんとうーいぬあまうーいぬあまうー
うーいぬあまうーいぬあまうー
うーいぬあまうーいぬあまうー
うーいぬあまうーいぬあまうー
うーいぬあまうーいぬあまうー

○ひんぐのえ 弄 花散里也

○きさ風あうて 或母 花散里の舟也

○よそとうとくし 河直人の舟也と云也

○ゆりらんふと 也 秘 夕霧の舟を何と云也
うさうしあうやうーいぬ也

しぬぞあまうーいぬあまうー
ひんぐーらん人北津ゆまうー
けさ風あうてあまうーいぬあまうー
しぬぞあまうーいぬあまうー
てあうーいぬあまうーいぬあまうー
わらびあまうーいぬあまうー
とやあまうーいぬあまうー
まようーいぬあまうーいぬあまうー
もろあまうーいぬあまうー
よあまうーいぬあまうーいぬあまうー
まようーいぬあまうーいぬあまうー
まらあまうーいぬあまうーいぬあまうー

○うにま 万水 小野（？）

○より人の文ハ 或抄 夕霧の初也

○きつとさうい 万水 花散里と

○うやまりり 或抄 夕霧の我も

○とくにさうい 弄雲舟雁の心無用れ文と取つて

○そのつらハ 巴抄 文のつらハ何とぞ不及返も也

○いとよろ 細 名をまぬは官と云う下心よ含
巴抄 雲舟雁の初也 花散里へ尺山凡ゆとさう
いさやうはあやせれい

○いそふの 細 夕霧の初

○世のふよ 弄夕霧と世上の好色とさうい
○母女房よりい 弄人くも夕霧ハまあ入らうと
さういよの初とさうい

Handwritten Japanese text in kuzushiji script, consisting of approximately 30 vertical columns of characters. The text is dense and difficult to decipher without specialized knowledge of the cursive hand.

○万水の息不の病中よとありて
そとくは病つんと

○廿君そ孟雲舟雁くうりて也

○あふくうー花わくーと云心も
弄心のわくーと云れり也

○我るうりー也雲舟雁の随意と我ゆん

○心やいも孟小野のつと云ありて
廿二宮の心やいも有るも上久日
る悪目るれはつ返るうりて吉月と
えんてまうんと

○人定く細の息不の病中よとありて
八坂目るれは怪あり
花九坂目不可出行き九諸事終之日也
○悪目いりて也

○るともん弄いりていよと云小野の
うりて音の波
うりて心孟うりて心也

○細文の初

○母のりりて孟一夜はうりてやと云
の息不のりりてはわりての初也

○秋の野乃舟夕霧也細實事なりと云
しとくうりて枕と云いりて

○よ人のゆにハ弄先夜もうりては
こりて罪とえりて無意趣はは

あふくうー花わくーと云心も
弄心のわくーと云れり也
我るうりー也雲舟雁の随意と我ゆん
心やいも孟小野のつと云ありて
廿二宮の心やいも有るも上久日
る悪目るれはつ返るうりて吉月と
えんてまうんと
人定く細の息不の病中よとありて
八坂目るれは怪あり
花九坂目不可出行き九諸事終之日也
悪目いりて也
るともん弄いりていよと云小野の
うりて音の波
うりて心孟うりて心也
母のりりて孟一夜はうりてやと云
の息不のりりてはわりての初也
秋の野乃舟夕霧也細實事なりと云
しとくうりて枕と云いりて
よ人のゆにハ弄先夜もうりては
こりて罪とえりて無意趣はは

あふくうー花わくーと云心も
弄心のわくーと云れり也
我るうりー也雲舟雁の随意と我ゆん
心やいも孟小野のつと云ありて
廿二宮の心やいも有るも上久日
る悪目るれはつ返るうりて吉月と
えんてまうんと
人定く細の息不の病中よとありて
八坂目るれは怪あり
花九坂目不可出行き九諸事終之日也
悪目いりて也
るともん弄いりていよと云小野の
うりて音の波
うりて心孟うりて心也
母のりりて孟一夜はうりてやと云
の息不のりりてはわりての初也
秋の野乃舟夕霧也細實事なりと云
しとくうりて枕と云いりて
よ人のゆにハ弄先夜もうりては
こりて罪とえりて無意趣はは

うろたふ也 花はさよふりひやふり
 是とてわづらの油はうら出て尺よ和泉式
 〇スヤよいと 孟世宮の文はくさる也

〇布とさ馬 河駭足馬
 花後の鞍ハ隨身のろ馬よとく也大将ハ
 隨身とりつふゆ人也

〇二よのこゆふ 弄つたこのせよといひく也
 〇うたり 或抄 右近大支将監よ口上よの給む

〇ウーニよハ 或抄 中野也

〇のらけしとて 弄ぬ息承のくさうり文よ
 尺ゆさるとすわしとて

〇いんろり 或抄 いんろり情るま

〇中しとてし尺の弄廿二宮ハ實事よまれば
 とてあまうしは

〇うあやうる人は孟夕務よる

〇ういかりう 巴抄 内息承の心で廿二宮のあふ
 めせ也

〇わらうめ 孟實るわらうつと内息承の決定
 一夜はりの宿とてわらわらうつと也

のいんろり情るま
 あまうしは
 うあやうる人は
 ういかりう
 わらうめ
 中しとてし尺の
 のらけしとて
 うろたふ也
 是とてわづらの
 〇スヤよいと
 〇布とさ馬
 花後の鞍ハ
 隨身のろ馬よ
 〇二よのこゆふ
 〇うたり
 〇ウーニよハ
 〇のらけしとて
 〇いんろり
 〇中しとてし尺
 〇うあやうる
 〇ういかりう
 〇わらうめ

○心くろくろく或杖は息不の心也夕霧の心は
物ぞいほくろひぬ也

○このとれと物なりく或杖柏木の心はよ
又夕霧の心とちひさぬ也

○今さよよ 舟の息不の宮よりぬ
孟實事あるやうよ心えく心息不の世宮
は異見しぬ也

○あつともよ也杖の心くせむいひさく今ハ
何事し心分別有るは四年の心也

○さつともよ也杖の心くせむいひさく今ハ
何事し心分別有るは四年の心也

○今さよよ 舟の息不の宮よりぬ
孟實事あるやうよ心えく心息不の世宮
は異見しぬ也

○今さよよの孟くろくろく今さよよ
またりぬ也
○今さよよの河忠臣不事二君貞世不更三
丈

あつともよ也杖の心くせむいひさく今ハ
何事し心分別有るは四年の心也

今さよよの孟くろくろく今さよよ
またりぬ也
今さよよの河忠臣不事二君貞世不更三
丈

○うらまひのしほ 孟 廿二宮と四息のそん氣
何よりうり約也

○うらまひのしほ 孟 廿二宮と四息のそん氣
柏木も如地夕霧も又無音と

○うらまひのしほ 孟 廿二宮と四息のそん氣
伊豆のうらまひも 或世 律味のれた散也

○うらまひのしほ 孟 廿二宮と四息のそん氣
うらまひのしほも 其験もろくも也 定業限あり
ろくも世物語り 験もろくも 成就不成就と 蘇芳
悉皆世間のありと白也

○うらまひのしほ 孟 廿二宮と四息のそん氣
うらまひのしほ 巴抄の息のそん氣也

○うらまひのしほ 孟 廿二宮と四息のそん氣
雨息不の後悔し好也

うらまひのしほ 孟 廿二宮と四息のそん氣
伊豆のうらまひも 或世 律味のれた散也
うらまひのしほも 其験もろくも也 定業限あり
ろくも世物語り 験もろくも 成就不成就と 蘇芳
悉皆世間のありと白也

うらまひのしほ 孟 廿二宮と四息のそん氣
うらまひのしほ 巴抄の息のそん氣也
雨息不の後悔し好也

○やまし絶入ぬぬ 弄 係終のふとてうし
○*Handwritten cursive text*

○例のく 孟物のきよ常は絶入るぬ也

○今よりひや 或掛 廿九とものし世

○まらるるまら 或掛 一とて死の道は各別
○ちり道理
○かちしあもを 孟 くるもあもをとてあもを
○あもを人の罪

○うとて 弄 籠居の使はもあもし

○ソつのもろし 世掛 一とてあもをてあもをの
○あもをひつりて 或掛 一とてあもをてあもを

Handwritten cursive text in a single column, likely a transcription of the adjacent page's content.

○ひらまさく 巴抄 泪也

○いのみらちをいふは 河令と人のいふよるは物なり
ちよひはせしむるありけるなり
或は世に官の心せよとせしむるなり

らとむりしむるなり
おのれの心せよとせしむるなり
しよるなり
令と人の心せよとせしむるなり
いのみらちをいふは 河令と人のいふよるは物なり
ちよひはせしむるありけるなり
或は世に官の心せよとせしむるなり

○どうていよ 巴抄 文也

○いといふる 巴抄 實事なりしとありて
夕霧のそととといふはうしとありて
うせのり

○後の世にいつとも 井の息子の罪障といふ

○世の人の心と 孟 夕霧のそととといふはうしとありて
くろいぬ也

○ちよひはせしむるなり 取抄 巴下夕霧の心也

らとむりしむるなり
おのれの心せよとせしむるなり
しよるなり
令と人の心せよとせしむるなり
いのみらちをいふは 河令と人のいふよるは物なり
ちよひはせしむるありけるなり
或は世に官の心せよとせしむるなり

○くくわきり 巴枳 懇切とちくあつむらう
くくあへくきりゆきとて わがこくやハ也

○しすの 昇 昇事の時
巴枳好色はつはつと異事とて 愁 憂
つらつとて
我心はわくわくと 巴枳 身の入れ 愁と人のよ
はなれ ことりのさす也

○大んやん 昇 夕霧の青はつとらひ出ぬ也
夕霧勢の祖母ハ

○りのあふ 孟 大宮の時 致仕大臣の大やう
ありとて 孟 孟のれんこつとて

○秋のひし 夕霧の心也とてとて
○しんろふ 巴枳 老定とて也
○あがやきく 花 花とてとてとて
○さしまねる 孟 孟とてとて
○きりし 孟 孟とてとて

○中りねとつ 昇 致仕大臣とてとてとて
○我うとて 巴枳 りう 親とてとてとて
わうととて 孝不孝とてとてとて

○故右衛門督と 巴枳 柏木大宮 孝行とて
とて 巴枳 孝の時とて 別而とて 付て 孝行と
てとて 信用せとて

くくあつむらう 巴枳 懇切とちくあつむらう
くくあへくきりゆきとて わがこくやハ也
しすの 昇 昇事の時
巴枳好色はつはつと異事とて 愁 憂
つらつとて
我心はわくわくと 巴枳 身の入れ 愁と人のよ
はなれ ことりのさす也
大んやん 昇 夕霧の青はつとらひ出ぬ也
夕霧勢の祖母ハ
りのあふ 孟 大宮の時 致仕大臣の大やう
ありとて 孟 孟のれんこつとて
秋のひし 夕霧の心也とてとて
しんろふ 巴枳 老定とて也
あがやきく 花 花とてとてとて
さしまねる 孟 孟とてとてとて
きりし 孟 孟とてとて
中りねとつ 昇 致仕大臣とてとてとて
我うとて 巴枳 りう 親とてとてとて
わうととて 孝不孝とてとてとて
故右衛門督と 巴枳 柏木大宮 孝行とて
とて 巴枳 孝の時とて 別而とて 付て 孝行と
てとて 信用せとて

くくあつむらう 巴枳 懇切とちくあつむらう
くくあへくきりゆきとて わがこくやハ也
しすの 昇 昇事の時
巴枳好色はつはつと異事とて 愁 憂
つらつとて
我心はわくわくと 巴枳 身の入れ 愁と人のよ
はなれ ことりのさす也
大んやん 昇 夕霧の青はつとらひ出ぬ也
夕霧勢の祖母ハ
りのあふ 孟 大宮の時 致仕大臣の大やう
ありとて 孟 孟のれんこつとて
秋のひし 夕霧の心也とてとて
しんろふ 巴枳 老定とて也
あがやきく 花 花とてとてとて
さしまねる 孟 孟とてとてとて
きりし 孟 孟とてとて
中りねとつ 昇 致仕大臣とてとてとて
我うとて 巴枳 りう 親とてとてとて
わうととて 孝不孝とてとてとて
故右衛門督と 巴枳 柏木大宮 孝行とて
とて 巴枳 孝の時とて 別而とて 付て 孝行と
てとて 信用せとて

○細待と云ふは先音信也

○細虚名よはるまじ

○細と云ふは弄ひと云ふ事なり

○細の哥は

○細の文と云ふは

○細と云ふは

○九月十日

○峯のくまもと

○河穀穂黄 良氏文集

○細我心

細待と云ふは先音信也
細虚名よはるまじ
細と云ふは弄ひと云ふ事なり
細の哥は
細の文と云ふは
細と云ふは
九月十日
峯のくまもと
河穀穂黄 良氏文集
細我心

九月十日
峯のくまもと
河穀穂黄 良氏文集
細我心

○夕霧のときよ 巴敷 草枯の時分をうへし

○まんなかの河古今 我宿のこゝかゆき
しううてん野ふるをれをきこうしうてん

○まんなかの万水 暮秋八常のふるんと物と
しうてん入るる心也

わしむゆりしんをさうろつてん
よかんしうしうしうしうしうしう
まのしうしうしうしうしうしう
よかんしうしうしうしうしうしう
しうしうしうしうしうしうしう
のしんしうしうしうしうしうしう
あましうしうしうしうしうしう
このしうしうしうしうしうしう
しうしうしうしうしうしうしう
しうしうしうしうしうしうしう
よかんしうしうしうしうしうしう
しうしうしうしうしうしうしう

○いり 夕やふり 万水 紅の濃色をうへ
○うらめ 盃 板引をうへし
○きりう 或敷 夕霧と同し

○夕霧のときよ 或敷 廿七も如くはるる

○あましうしう 巴敷 自然よあましうしう 折也

○かきしうしうしう 巴敷 せんしうしうのあま也
○あましうしう 或敷 夕霧の心つしうしうの外よ別人
とあましうしう

よかんしうしうしうしうしうしう
しうしうしうしうしうしうしう
あましうしうしうしうしうしう
このしうしうしうしうしうしう
しうしうしうしうしうしうしう
よかんしうしうしうしうしうしう
しうしうしうしうしうしうしう
あましうしうしうしうしうしう
このしうしうしうしうしうしう
しうしうしうしうしうしうしう
よかんしうしうしうしうしうしう
しうしうしうしうしうしうしう

○るをうらつてを 弄 近て也
或披 女将君近くまひりよれと夕霧の詞也

○さういひぬりー 或披 女将君さうう勝られぬ
の好なり

○さういひぬりー 細まひりうらうらう也

○さういひぬりー 巴掛 木丁と女将う我う人
ひいて用意可然也
○大和守の詞いひぬりー 弄 山息系のめい也女将君さ

○さういひぬりー 細眼と着う也

○さういひぬりー 河 椽 順和名 黒色也是うそ
黒眼と漆也又四位以上袍とて是うそ漆故よ
つらうの衣と云国とさうう抄椽と奉格とを
さう 奥注之
○さういひぬりー 花夕霧の詞也
孟 山息系のめいハちとさう也

○さういひぬりー 弄 女将れいりうよかよさう我
こひハのやちよと人のよまも

○さういひぬりー 或披 山息系の西文のめい

○さういひぬりー 巴掛 女将君也

○さういひぬりー 細 女将君詞
孟 夕霧の返さういひぬりーと山息系の根
筋いひぬりー女将のうらうらう

Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), consisting of approximately 15 lines of text across the bottom half of both pages.

○世のふみ 弄 ちよもももも中へん

○あ(物)ノ弄 あやうりの也

○う(つ)のふみ 弄 一乃よぬ

○い(い)のふみ 弄 細雲丹雁の心

○い(い)のふみ 弄 河 本舞
孟まんのやうらうら 雲丹雁の陽のあか也
○あ(あ)のふみ 弄 孟夕霧文をうらうらあとも吟
声してきて 雲丹雁のまうあ也

○う(う)のふみ 弄 夕霧也 細 今かくあまきと夢
のうらととせふはあつ約とらきうらうら也夕
霧の心は待あくと並あまてうらとわらわら
○上(上)のふみ 弄 細雲丹雁のくさうらあ
河六帖いふうらうらうらうら 小野山のうらうら
はらまうらあ 花うらうらオ三住うらうら其
わらうらひえさうらうらうら 音羽川うらうら
湖の音水の色を哀よらうら也 今案音無川の
紀伊國に有音無湖の野山はうらうらうら音羽川と
小野山並さうらうら音無湖のうらうら
○あ(あ)のふみ 弄 或扱文をうらうらうらうら
音ととらあ
○あ(あ)のふみ 弄 弄 雲丹雁の心
日んきそらう 一水小野うらうらうらうら也

Handwritten musical notation in a cursive style, consisting of various symbols and lines representing notes and rests. The notation is arranged in two columns, one on each page of the manuscript.

○まろくろくまて 或抄 せきくろくろくまて

○いりあしはよ 或抄 夕霧の心とせしよとて

○わろくろくまて 細 夕霧の文よ手習ちあろく

○目よいんあひ 也抄 夕霧の文よ廿二宮せり
てりんくろくまて 夕霧の心也

○人ろくろくまて 也抄 草子地満足わん心也

○或抄 是くろくまて 夕霧の心よ
外はまろくまて

○ろくまて 弄 引割くろくまて 紙ろくまて

○ろくまて 弄 廿二宮のてろくまての哥也

○弄 此哥よ音無けとわろくまて 夕霧の文よ
の哥ろくまて

○ろくまて 弄 細 引やろくまて 文ろくまて
あろくまて 也 暫時まろくまて 付
るろくまて 也

○古ろくまて 弄 てるろくまて 夕霧の心也

○ろくまて 細 木ろくまて

○ろくまて 弄 孟人の上とろくまて 我
身よ 或てろくまて 夕霧の心也

まろくろくまて 或抄 せきくろくろくまて

いりあしはよ 或抄 夕霧の心とせしよとて

わろくろくまて 細 夕霧の文よ手習ちあろく

目よいんあひ 也抄 夕霧の文よ廿二宮せり

てりんくろくまて 夕霧の心也

人ろくろくまて 也抄 草子地満足わん心也

或抄 是くろくまて 夕霧の心よ

外はまろくまて

ろくまて 弄 引割くろくまて 紙ろくまて

ろくまて 弄 廿二宮のてろくまての哥也

弄 此哥よ音無けとわろくまて 夕霧の文よ

の哥ろくまて

ろくまて 弄 細 引やろくまて 文ろくまて

あろくまて 也 暫時まろくまて 付

るろくまて 也

古ろくまて 弄 てるろくまて 夕霧の心也

ろくまて 細 木ろくまて

ろくまて 弄 孟人の上とろくまて 我

身よ 或てろくまて 夕霧の心也

ろくまて 弄 孟人の上とろくまて 我

身よ 或てろくまて 夕霧の心也

ろくまて 弄 孟人の上とろくまて 我

身よ 或てろくまて 夕霧の心也

ろくまて 弄 孟人の上とろくまて 我

身よ 或てろくまて 夕霧の心也

ろくまて 弄 孟人の上とろくまて 我

身よ 或てろくまて 夕霧の心也

ろくまて 弄 孟人の上とろくまて 我

身よ 或てろくまて 夕霧の心也

ろくまて 弄 孟人の上とろくまて 我

又哀とありふるれいなきもの世とも
よ大すなる世

○あつゝをきこ何ううらまはあつゝをきこ
らひのあやふけいひもまらか

○ひこつて何 無言太子は羅素王之太子其名
休魄容端正生而十三年不言人不因色諸臣汲羅
門道士等誅謗地下作城欲埋之時大臣休其車
前重悲此事太子云我得不言生而欲埋将言怖入
地獄自全身不害欲救魂脱苦謗我不言者皆欲
生龍背千時国王夫人行迎太子云下略
又或経云飢ち鳥蛤とくくして食んとして不破
童子見之云石よぐとくもて可破云鳥教のや
りて食として太子其罪よりて墮惡道後又王子
と生る無言太子是也生て十三年まで物といくと
是也仍よらうまんとくると太子の云言當罪不
言當咎ニ太子者今釈迦如来也 見坂未足

○我心ゆくを 細 中庸といアリ女の一生と無事
つてつうんすハ有るごと

○女官の也 批 紫上の悉皆そくをい

○石とあるの 細 淨氏の行

○そくしとの 巴 批 三とセイ 仍る内本三十年
ほ氏五十歳朱養院の護位廿三年淨氏は八歳の時
のふ也その時分の息ふ花やりよあていさ
してく 三とセハ 柏木逝去已後三年也
○夕の露乃弄 朝露貪名利夕陽愛子孫此句
よつて夕の露とくころる

○このよゆり 細 今日とさ明日とをさ

あつゝをきこ何ううらまはあつゝをきこ
らひのあやふけいひもまらか
あつゝをきこ何ううらまはあつゝをきこ
らひのあやふけいひもまらか
あつゝをきこ何ううらまはあつゝをきこ
らひのあやふけいひもまらか
あつゝをきこ何ううらまはあつゝをきこ
らひのあやふけいひもまらか

あつゝをきこ何ううらまはあつゝをきこ
らひのあやふけいひもまらか
あつゝをきこ何ううらまはあつゝをきこ
らひのあやふけいひもまらか
あつゝをきこ何ううらまはあつゝをきこ
らひのあやふけいひもまらか
あつゝをきこ何ううらまはあつゝをきこ
らひのあやふけいひもまらか

○まては 弄 世の人れを引てのほく

○四十九日 弄 弄るるわくとし

○いさむ世のくさり 世抄 弄るるわくとし
たもて 弄るるわくとし

○院より 細 源氏の初朱雀院也

○のろく 弄 孟 世二宮のほく也

○おろく 弄 或抄 息不也

○おろく 弄 弄 世のくさり 弄るるわくとし
弄るるわくとし

○入道の入やより 弄 落葉宮のほくと冬霧ま
とくまわりの心もて 先世三宮のほくと
弄るるわくとし

○心は 弄 花々霧のほくと世三宮のほくと
弄るるわくとし
○入道と名ハ 或抄 世三宮のほくと
弄るるわくとし

かしのほく 弄るるわくとし
弄るるわくとし

弄るるわくとし 弄るるわくとし

弄るるわくとし 弄るるわくとし

弄るるわくとし 弄るるわくとし

弄るるわくとし 弄るるわくとし

弄るるわくとし 弄るるわくとし

弄るるわくとし 弄るるわくとし

弄るるわくとし 弄るるわくとし

弄るるわくとし 弄るるわくとし

弄るるわくとし 弄るるわくとし

弄るるわくとし 弄るるわくとし

弄るるわくとし 弄るるわくとし

弄るるわくとし 弄るるわくとし

弄るるわくとし 弄るるわくとし

弄るるわくとし 弄るるわくとし

弄るるわくとし 弄るるわくとし

弄るるわくとし 弄るるわくとし

弄るるわくとし 弄るるわくとし

弄るるわくとし 弄るるわくとし

弄るるわくとし 弄るるわくとし

弄るるわくとし 弄るるわくとし

○大将もしく 巴敷 廿二宮へ種こもしくゆゆ
とぞそ也 夕霧心也

○うの心よ 孟廿二宮中同心可有るはうと
のやとしく凡 細故の息のくちるはひ
しひるもんこんと

○うの心よ 細の息不也

○うの心よりて 孟 今更也
細夕霧ハ今もしくはるうのまじうと
ひそしてまじけるものぞそ

○二条よ 細一条官よもくおんこんと

○さそそとと 細此一条官ハ横笛巻よとらわれ
さつゆらまれとあそよきとら 住るはと有
されとをせとら 住居よとら 草ゆとわれ
さつゆらまれとあそよきとら 住るはと有

○うの家よりて 巳獄 一の天和守家そ用意
○うの家よりて 巳獄 一の天和守家そ用意
○うの家よりて 巳獄 一の天和守家そ用意

とあがりてふんどののまじらひして
もあそよきとら 住るはと有
かひひおしけるも今あひひ
のあそよきとら 住るはと有
るびおしけるも今あひひ
あそよきとら 住るはと有
かひひおしけるも今あひひ
のあそよきとら 住るはと有
るびおしけるも今あひひ
あそよきとら 住るはと有
かひひおしけるも今あひひ
のあそよきとら 住るはと有

さそそとと 細此一条官ハ横笛巻よとらわれ
さつゆらまれとあそよきとら 住るはと有
されとをせとら 住居よとら 草ゆとわれ
さつゆらまれとあそよきとら 住るはと有
○うの家よりて 巳獄 一の天和守家そ用意
○うの家よりて 巳獄 一の天和守家そ用意
○うの家よりて 巳獄 一の天和守家そ用意

○まよほすこしと 孟落葉官小野まよほす

○まよほすをぬりし 或枚兼引不申とと大和守河也

○まよほす 巴枚 随分堪忍しとと

○今八國のもも 弄 大和守もれ八國勢とと

○おひいともむ 孟夕霧よりまよほすひ有也

○まよほすは 弄 夕霧の心まよほすまよほすの方

○まよほすいともむ 細柏木のまよほす十分まよほす

○まよほす 巴枚 世三官の一身のまよほすまよほす

○まよほす心まよほす 細くまよほす

○まよほす人のまよほす 孟 血後見のまよほすまよほす

○まよほすら此 細 まよほすまよほす

まよほすまよほすまよほすまよほす

まよほすまよほすまよほすまよほす

まよほすまよほすまよほすまよほす

まよほすまよほすまよほすまよほす

まよほすまよほすまよほすまよほす

まよほすまよほすまよほすまよほす

まよほすまよほすまよほすまよほす

まよほすまよほすまよほすまよほす

まよほすまよほすまよほすまよほす

まよほすまよほすまよほすまよほす

まよほすまよほすまよほすまよほす

まよほすまよほすまよほすまよほす

まよほすまよほすまよほすまよほす

まよほすまよほすまよほすまよほす

まよほすまよほすまよほすまよほす

まよほすまよほすまよほすまよほす

まよほすまよほすまよほすまよほす

まよほすまよほすまよほすまよほす

まよほすまよほすまよほすまよほす

まよほすまよほすまよほすまよほす

まよほすまよほすまよほすまよほす

まよほすまよほすまよほすまよほす

まよほすまよほすまよほすまよほす

まよほすまよほすまよほすまよほす

まよほすまよほすまよほすまよほす

○いそいでても 細草子地也
孟世官のとうとうして人のP...

○いそいでても 弄 眼中るれはちり入の儀式よハ
ヤウ...

○いそいでても 巴椒 物まうまきて夕霧の
細女将君の初也

○いそいでても 或抄 とうとて...

○何る身の内り 細女将の云也人の...

○いそいでても 細夕霧の初也...

○いそいでても 或抄 息のゆ...

○いそいでても 巴椒 女将君初

○いそいでても 或抄 息のゆ...

○いそいでても 孟 周章

Handwritten musical notation in a cursive style, consisting of various symbols and lines.

Handwritten musical notation in a cursive style, consisting of various symbols and lines.

○おんまじしう 或柳 夕霧の心也

○おんのりてんろう 巴柳 ぬるいふまひの
こころのまじしうはこころのまじしう

○山鳥のゆらり 河 ひとふさてしうらハコころハ
とりのこころをさうとさうを物ハうらハ
弄らうハ雌雄一不なれぬ鳥也 杜宿のまじ
しう

○いしハバ 巴柳 しくとあう 躰也あうは
ひて面ハ對面しうらうらうと 静の詞と
うらハくさのひまわうとあはせとて
まじしう 或柳 しくとあう 躰也あうは
しくと

○うらハくさのひまわう 又さうさうらハ前野まじ
しう 今夜又うらハくさのひまわう
重てさうさうらハ 岩とハ天の岩戸也
巴柳 かくさの詞とゆきとせとの哥也

○二条のりや 細 花散里の詞

○のたとのまじしう 弄 致仕大臣邊也

○おんやうまじ 細 夕霧詞人しうひまじしうも有
るまじしう

○いしゆらう 孟 中息木の心つらうしうは
ひまじしう 限の時よりうてさうらハくさの
まじしう 遺言のまじしう

いしゆらうまじしう
おんやうまじしう
おんのりてんろう
山鳥のゆらり
いしハバ
うらハくさのひまわう
二条のりや
のたとのまじしう
おんやうまじしう
いしゆらう

いしゆらうまじしう
おんやうまじしう
おんのりてんろう
山鳥のゆらり
いしハバ
うらハくさのひまわう
二条のりや
のたとのまじしう
おんやうまじしう
いしゆらう

○おんなりの孟夕雲の我のよふ〜のありし

○物のつらん河〜のよふ〜の幕
花のあは〜の幕

○のあし〜 孟 世宮のあ

○おんなりの孟夕雲〜の又〜
心をも〜 弄花統じり
○きん〜 河 嫌 疑 世 柳 花 海 ありし〜
うい〜の〜人〜き〜
○又の〜の〜 或 柳 花 海 ありし〜
て〜の息の遺言よ〜

○院の〜 細 信 氏 柳 花 海

○のあ〜 孟 世宮のあ

名

おんなりの孟夕雲の我のよふ〜のありし
物のつらん河〜のよふ〜の幕
花のあは〜の幕
のあし〜 孟 世宮のあ
おんなりの孟夕雲〜の又〜
心をも〜 弄花統じり
きん〜 河 嫌 疑 世 柳 花 海 ありし〜
うい〜の〜人〜き〜
又の〜の〜 或 柳 花 海 ありし〜
て〜の息の遺言よ〜

おんなりの孟夕雲の我のよふ〜のありし
物のつらん河〜のよふ〜の幕
花のあは〜の幕
のあし〜 孟 世宮のあ
おんなりの孟夕雲〜の又〜
心をも〜 弄花統じり
きん〜 河 嫌 疑 世 柳 花 海 ありし〜
うい〜の〜人〜き〜
又の〜の〜 或 柳 花 海 ありし〜
て〜の息の遺言よ〜

名

人のろくろや 細花散りの句

○人々の世のほのれ 世砂 男の身は皆世に

○三条のひわ君 細雲弁雁也

○ろくろのほのれ 細 夕霧の句

孟 三条の姫君は花散里のほのれをて姫
君ろくろのんまてはる 思へて

一本 抄

○ろくろのほのれ 孟 夕霧の句

○あわのほのれ 細 海氏の句

○人のろくろのほのれ 水 世のほのれをて
行ふとてふりのほのれ

○あわのほのれ 孟 夕霧の句

○我は人の 孟 健君の句

○あわのほのれ 細 人の句

○あわのほのれ 細 雲上也

○あわのほのれ 細 花散里也

○あわのほのれ 孟 花散里也 物のほのれ

あわのほのれ 孟 夕霧の句
あわのほのれ 細 人の句
あわのほのれ 細 雲上也
あわのほのれ 細 花散里也
あわのほのれ 孟 花散里也 物のほのれ

あわのほのれ 孟 健君の句
あわのほのれ 細 人の句
あわのほのれ 細 雲上也
あわのほのれ 細 花散里也
あわのほのれ 孟 花散里也 物のほのれ

○身のくさうと 世根のうらうらとあり
ひろくかのちのちあはるることありと感へし

○さきやうと 花も花散里のうらうらと

○のりり 細 夕霧のうらうらとては氏
我のうらうらとては氏

○うらうらとては 孟 夕霧のうらうらとては氏の後
うらうらとては

○さうとて人の河 賢人も方の上は是非と
さうとて 或はうらうらとては

○ささん常よ 花夕霧の返答也
弄 巳前の巻とも世道の教訓なり也

○あきふ 細 落葉のうらうらと

○あきふ 孟 落葉の宮にる也
或は巳下は氏の心也

○わいまいり 弄 夕霧の空を也

○物さひろく 或は 跡忽の有へき年齢と
る

にりよりのあはるることありと感へし
くかのちのちあはるることありと感へし
さきやうと 花も花散里のうらうらと
のりり 細 夕霧のうらうらとては氏
うらうらとては 孟 夕霧のうらうらとては氏の後
さうとて人の河 賢人も方の上は是非と
さうとて 或はうらうらとては
ささん常よ 花夕霧の返答也
弄 巳前の巻とも世道の教訓なり也

あきふ 細 落葉のうらうらと
あきふ 孟 落葉の宮にる也
わいまいり 弄 夕霧の空を也
物さひろく 或は 跡忽の有へき年齢と
る

七十五

。のよ、孟雲舟雁のふかきうりね也

。いさく河次也 近江国湯次庄

。いさく巴掛 ふうのね也

。いさく巴掛 夕霧の心也

かゝるさうしなをばかしのうらむ
 とらりあゝぬびとのうらむ
 しなうらむかゝるさうしな
 かしなをばかしのうらむ
 おうしなをばかしのうらむ
 おうしなをばかしのうらむ
 おうしなをばかしのうらむ
 おうしなをばかしのうらむ
 おうしなをばかしのうらむ
 おうしなをばかしのうらむ

。いさく細雲舟雁の心
 或掛うらむいさくいさく

。いさく細夕霧の心

。いさく或掛うらむいさくいさく

。いさく巴掛雲舟雁の心いさく
 廿二宮うらむいさくいさく

。いさく或掛夕霧の心いさくいさく
 いさくいさくいさくいさく

かゝるさうしなをばかしのうらむ
 とらりあゝぬびとのうらむ
 しなうらむかゝるさうしな
 かしなをばかしのうらむ
 おうしなをばかしのうらむ
 おうしなをばかしのうらむ
 おうしなをばかしのうらむ
 おうしなをばかしのうらむ
 おうしなをばかしのうらむ
 おうしなをばかしのうらむ

○まきまきし〜 或秋 夕霧の何れとなく
ねと大なるのうら〜 いたる所へともなくさかぬ
るこたつ 或秋 柔也 やつとさぬ也

○心はろ〜 孟 夕霧の心也
○うきと〜 細 廿二官也

○かいるぬ 万水 我よわひぬるると本意
とあぢとせ 廿二官のとし尾もや成ぬると

○まきとら〜 弄 夕霧より廿二官の文とま
せれ〜 とら〜

うら〜
おら〜
んぬ〜
のぬ〜
か〜
ら〜
ま〜
り〜
よ〜
う〜
は〜
こ〜

○まのよき下巻と 花 雲井雁のよ也

○ひり〜 細 夕霧の詞

○あ〜のつ〜 巴 秋 雲井雁と夕霧との中と
引〜を〜 我もち〜て〜の〜 嫁
真心ま〜

○こ〜の〜 弄 夕霧の雲井雁よ
う〜の〜 くの〜 心〜
心〜は〜 負〜
と〜也 廿二官は不嫁と〜
夕霧の〜

うら〜
おら〜
んぬ〜
のぬ〜
か〜
ら〜
ま〜
り〜
よ〜
う〜
は〜
こ〜

○母人よ 弄女侍君よ

○きよとちひ 細女侍君に也夕霧のつらみ

きよとちひ

○かみちうと 弄女三官のつら

巴掛夕霧のちとてぬく

○さるー 万水 廿三宮の心也

○これちうちうち 細女夕霧のつらみ

Handwritten musical notation on the right page of the top section, consisting of approximately 14 lines of notes.

○さるー 万水 廿三宮の心也
○いとう 花 夕霧の心也

○あつちうちの 巴掛ちうちのつらみ

○とうとと 何とうととつらみのつらみ
○あつちうちの 我がちうちのつらみ
○あつちうちの 孟婆白と本とちひのつらみ
○あつちうちの 弄村島の五つ 我各
○あつちうちの ちうちのちうちのつらみ

Handwritten musical notation on the left page of the top section, consisting of approximately 14 lines of notes.

○河世甲の...
○身...
○あ...

○或抄...
○あ...

○或抄 夕霧の句

○あ...

○山名... 河 初一念識異木石生得善生
得思仁三經 人非木石皆有情 白氏文集

○今案... 盤城

○花... 盤城の詞艶るるころ也

○昔... 三條君の 孟雲并雁のものと夕霧のあ

○我... 巴敷 夕霧のあへく好色

○あ... 或抄 世三宮とよのころひ

Handwritten text in cursive style, likely a transcription of the text on the left page.

Handwritten text in cursive style, likely a transcription of the text on the left page.

○さしとまとも 孟 夕霧の夕夕もかしこ

○我の心を 或母 我と我心とをいふもてはは下
をもつらばをさぶらふとまかすもつかうとは
かかす也

○うちをうらま 或母 致仕大臣の山の山門に

○ちりて人 細 巾服の中也

○例のちりて人 弄 常の巾方也其官の巾方也

○東垣のふら屏風と弄 眼の具ともいふとさ
けいひてとてよ也

○てらてらとや 細 繪様をてらてらとて物也

○らんのみよ 河 況二階 或母 二階ハ棚也況ハ味
くすちとて其地をくすこ也

○山吹のいろ 弄 陪膳の人ハ衣裳也青いひか
しの色とてくすくすもいふ也

○うと色のと 河 裳

○あついはちの 孟 眼中うれと 言服のやうとて
あついでんじつくんの着也
○かこころ 孟 かこころ 任あるれハの息あめ
たりともいふもさ也

あついはちの 孟 眼中うれと 言服のやうとて
あついでんじつくんの着也
かこころ 孟 かこころ 任あるれハの息あめ
たりともいふもさ也
てらてらとや 細 繪様をてらてらとて物也
らんのみよ 河 況二階 或母 二階ハ棚也況ハ味
くすちとて其地をくすこ也
山吹のいろ 弄 陪膳の人ハ衣裳也青いひか
しの色とてくすくすもいふ也
うと色のと 河 裳
あついはちの 孟 眼中うれと 言服のやうとて
あついでんじつくんの着也
かこころ 孟 かこころ 任あるれハの息あめ
たりともいふもさ也

あついはちの 孟 眼中うれと 言服のやうとて
あついでんじつくんの着也
かこころ 孟 かこころ 任あるれハの息あめ
たりともいふもさ也
てらてらとや 細 繪様をてらてらとて物也
らんのみよ 河 況二階 或母 二階ハ棚也況ハ味
くすちとて其地をくすこ也
山吹のいろ 弄 陪膳の人ハ衣裳也青いひか
しの色とてくすくすもいふ也
うと色のと 河 裳
あついはちの 孟 眼中うれと 言服のやうとて
あついでんじつくんの着也
かこころ 孟 かこころ 任あるれハの息あめ
たりともいふもさ也

○このつう人の或秋 夕霧の何ともしきり
様よハ又ゆへし

○此宮 細 落葉宮也
蔵人必侍 或秋 致仕息柏木也

○ちうのわねも奇 弄 致仕文臣奇柏木のゆうよ
衰しやい又夕霧の思とまていさうゆへに
しくも興りありきりさういさうゆへに 河よそそ
人よそそまていさうハ衰とまていさうゆへに
○まをえぬり 細 此のやうをいさうゆへに
○このつうよ 細 内外のまをえぬ

○このつうと孟 田座をまて蔵人よ納て各の思
巴秋 夕霧のまゆハ使るん也

○中よいし 巴秋 致仕の息ららのホヲ容儀可造

○いふ人を 孟 柏木のまて思ひさる躰也

○まゆりるわらう 細 必侍の詞

○このつうよ 或秋 廿二宮返るまをえしとの思
○此宮 宣旨書るまの備心めま

さうりあはれんぬとせしめく
つていさうのまていさうゆへに
おびのりこまていさうゆへに
つていさうのまていさうゆへに
さうりあはれんぬとせしめく
つていさうのまていさうゆへに
おびのりこまていさうゆへに
つていさうのまていさうゆへに

このつうのまていさうゆへに
つていさうのまていさうゆへに
おびのりこまていさうゆへに
つていさうのまていさうゆへに
このつうのまていさうゆへに
つていさうのまていさうゆへに
おびのりこまていさうゆへに
つていさうのまていさうゆへに

我をよきりし細雲并雁の心
とけし足跡かきし今世のやの多きこと
とつへふ也

文をしい巴秋まてく雲并雁の心
まづりし

うしろの哥 内侍也 細我の心
の上よもわくそ人さ袖るるを今に雲并雁の
よめしめしとて

うしろの心 河む
弄とろしとて云はれあり又うろり心也

うしろの心 巴秋内侍とささるわくそ人さ
あんとおろり心也

人の世に哥 弄 雲并雁の返哥也人の上は
うしろの心と忍れとも方よんといひおろり心也

侍の哥ハ身よ久し人の心わくそ人さ
より又大くこの人け世の心を今もよん
さとしり心し 巴秋一紙よそよまろり心也
とて方のよも人ささるわくそ人さ

哀よそる 巴秋 内侍とささる也
中よそる 巴秋 雲并雁と夕霧と致はの心
ははし中絶のるハ内侍と夕霧の心
ははし

細雲并雁の心腹也

おやの君 巴秋 女子とこれより
或秋 此大君ハ白官巻し春宮まろり心也中君ハ
二官の心方と成也

内侍ハ 或秋 内侍と六君ハ後ハ二官の心
うしろの心と云本巻ハ白官の心方とさる心也

うしろの心とささるわくそ人さ
よりおろり心とささるわくそ人さ
よりおろり心とささるわくそ人さ
よりおろり心とささるわくそ人さ
よりおろり心とささるわくそ人さ

うしろの心とささるわくそ人さ
よりおろり心とささるわくそ人さ
よりおろり心とささるわくそ人さ
よりおろり心とささるわくそ人さ
よりおろり心とささるわくそ人さ

うしろの心とささるわくそ人さ
よりおろり心とささるわくそ人さ
よりおろり心とささるわくそ人さ
よりおろり心とささるわくそ人さ
よりおろり心とささるわくそ人さ

十二人 五十二人の中雲井雁の腹は八人なれ
侍腹は四人也

ひんりのなしく 細 花散里也

。母はるういひの世柳夕霧の歴はれりうのうい
いんやうとういん
。或柳夕霧と雲井雁共三宮うのうのうや
。いひやうく 弄世式部語也卷と如世

めらるんとうぞおりけりすうぞ
十三人う中ううかありあふと
おうげううううううひひひひ
る肉体づのうううううう
ううううううううううう
あうてうううううううう
ううううううううううう
ううううううううううう
ううううううううううう
ううううううううううう

